

鈴木有郷牧師説教

8/07/2011

悪から善を導きだす神 イザヤ40:1-2、19:24

今から66年前、広島に原子爆弾が投下されました。その三日後に、長崎にもう一つの原子爆弾が投下されました。

広島と長崎合わせて14万人の命が一瞬にしてこの地上から吹き消されました。死者のほとんどは子供、女性、そして兵役についていない男性でした。次の週には何千人もの人が苦しみながら息絶えました。現在でも後遺症に悩む人がいます。

しかし、日本人である私たちは広島、長崎だけを憤ることはできません。真珠湾攻撃についても憤らなくてはなりません。何故なら、日本の真珠湾攻撃は卑怯であり、いかなる論理を駆使しても正当化できるものではないからです。真珠湾攻撃がなければ原爆投下もなかった筈なのです。

原爆投下は国際世論の非難を浴びました。真珠湾攻撃も国際世論の非難を浴びました。アメリカがヒロシマ、ナガサキについて語りたがらないのはそのためです。日本がパールハーバーについて語りたがらないのもそのためです。

しかし私たちクリスチャンは、ヒロシマとパールハーバーの両方を忘れてはなりません。何故なら、その二つは、人間が犯す悪は底なしだということに私たちの注意を引きつけるからです。

しかし、それだけではありません。悪から善が生み出されるという歴史が証しする 真実を、それらは垣間見せてくれるのです。

二つの例を挙げます。焦土と化した日本から、平和憲法が生み出されたのです。日本はいかなる戦争にも与しないという憲法第9条が盛り込まれたのです。日本は平和国家として新しく出発するというなみなみならぬ決心を、それを読む者に感じさせてくれます。

それではアメリカではどうだったでしょうか。日本を打ち破って浮かれ気分に浸っているアメリカ世論と一線を画した人々がいたのです。彼らの多くはクリスチャンでした。何トンにも及ぶ食料や医薬品や衣服等を箱につめて、現在のホームレスの人と同じような生活を余儀なくされていた日本の人々に送り続けたのです。この地味な活動がどれだけ終戦直後の日本人の心を癒したかわかりません。

この二つの例は、単なる歴史の偶然なのでしょう。ラッキーだった、運が良かったということでしょうか。

私たちクリスチャンは知っています。両方とも、悪から善を導き出す神の摂理の現れであるということ。

聖書はそのことを十分に証ししています。紀元前8世紀は、イスラエルの歴史の中で最も困難と苦難に満ちた時代でした。この世の栄華と栄光を極めたダビデ王国はあえなく消滅し、北のイスラエルと南のユダに分裂してしまっただけです。

その上、北のイスラエルは新興帝国アッシリアによって滅ぼされ、国民の半分以上がアッシリアに捕囚として連行されるという未曾有の不幸に見舞われたのです。

それを南のユダに身を置きながら断腸の思いで見ているのが、預言者イザヤです。彼は天に向かって悲痛な叫び声を上げます。「神よ、あなたは何処におられるのですか。絶望に満ちたあなたの民の声をお聞きにならないのですか。」

この悲痛な叫びに神は答えます。しかしそのメッセージはイザヤが想像もしなかったものでした。「慰めよ、慰めよ、わたしの民を慰めよ。」(イザヤ40:1)

国家の滅亡という未曾有の危機に直面しながら、慰めを口にすることなど何故できるのでしょうか。捕囚として遠いアッシリアに連行された民に希望を語るなどということが何故できるのでしょうか。

この何故という問いに神は答えます。「苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた。」(イザヤ40:2)

その証しとして神は救い主を送り給うというのです。しかし救い主の目的はイスラエルだけを救い、アッシリアを懲らしめることにあるわけではありません。

イザヤが想像もしなかった神のメッセージとはどのようなものだったのでしょうか。イザヤが聞いた神の言葉を聞きましょう。「祝福されよ、わが民エジプト、わが手の業なるアッシリア、わが嗣業なるイスラエル。」(イザヤ19:24)

救い主の御手はイスラエルにだけ差し伸べられているのではないのです。その慈しみの眼差しは、イスラエルが憎んでも余りがあるアッシリアにも注がれているのです。かつて彼らの祖先を奴隷として使役したエジプトにも注がれているのです。この驚くべきメッセージは、あの未曾有の国家壊滅という衝撃的な出来事の直中で与えられたのです。

私たちクリスチャンは告白します。このイザヤが垣間見た救い主の姿は、イエス・キリストにおいて肉となり、私たちの間に宿られた、と。イエスこそ神の赦しであり、あがないそのものである、と。

原爆投下から66年後に生きることを許されている私たちに与えられた責任と課題は明白です。私たちはイエスと共に歩むことが許されているのです。イエスの光を浴びて暗闇の中に光る灯火のような生きること

が許されているのです。神の摂理の貧しき器として、毎日を精一杯、生き生きと、他者に優しさの眼差しを注ぐ人間らしい生き方が許されているのです。地の塩として、世の光として生きることが許されているのです。

悪から善を導き出し給う神が、そのような生き方を可能にくださるのです。これほどの深い恵みがあるでしょうか。これほど力強いメッセージがあるでしょうか。